

117 昭和時代 社会主義運動の高まりと外交の転換



田中義一

田中義一

山県一桂・寺内と続く長州閥最後の陸軍軍人です。日露戦争でもよく戦いました。しかし二個師団増設を認めない西園寺内閣に不満で、**上原勇作** 陸相が軍部大臣現役武官制を使って西園寺内閣を倒したときに軍部大臣現役武官制を使って倒すアイデアを出した中堅陸軍官僚とは田中だと言われます。日露戦争後、国民が「戦争にはもう協力しない」という風潮が高まったので1908年の**戊申詔書**を出すアイデアを出したのも田中だし、村に帰った退役軍人による相互扶助と戦争協力の啓発活動を行う団体である**帝国在郷軍人会**を結成したのも田中でした。普通選挙の時代を迎え、立憲政友会は帝国在郷軍人会の100万票といわれる組織票が欲しくて、現役武官を引退した田中を立憲政友会総裁に迎えました。立憲政友会は戦争に理解を示す政党に徐々に変質していきます。これは民主主義（投票）の結果です。

< 田中義一 内閣 > (立憲政友会)

金融恐慌收拾の自信を失った若槻が政権を投げ出すと、元老西園寺は、二大政党のもう一方の立憲政友会に組閣させました。

3週間の モラトリアム (支払い猶予令)

高橋は清大蔵大臣によって、3週間の間に日銀券を大量発行して全国の銀行の金庫に運び入れました。預金者の不安を解決し、金融恐慌の收拾に短期間で成功しました。

五大銀行 の成立

金融恐慌の結果、中小銀行の淘汰が進み、預金が安心を求めて巨大銀行に集中しました。三井・三菱・住友・安田・第一です。格差是正が期待された政党内閣期に、財閥の力がいっそう強まったことになりますね。

労働農民党 の成立(若槻内閣)

修正社会主義政党です。議会を通じての社会主義実現(修正社会主義)を目指し、合法的な無産政党です。無産政党=社会主義政党です。裕福な有産階級に対して、貧困層を無産階級と表現しました。無産階級のための政党を無産政党といいます。

1928 第1回普通選挙 (田中内閣)

実際に最初の男子普通選挙が実施されたのは加藤内閣ではなく田中内閣になってからです。第1回普通選挙の結果、非合法的な日本共産党員が合法的な労働農民党員として立候補して一挙に8名も当選しました。しかもトップ当選最多得票で田中内閣は衝撃を受けました。

1928 三・一五事件

日本共産党員を一斉検挙しました。翌1929年にも一斉検挙を行い(四・一六事件)、日本共産党は実質壊滅、活動を停止しました。

1910 大逆事件

→ **特高** を東京府に設置【桂Ⅱ】

1928 第1回普通選挙の衝撃(8名当選)

→ **特高** を全国道府県すべてに設置【田中】

特別高等警察課。思想警察です。戦後、思想警察は憲法違反です。革命やクーデタ、テロを画策する要注意人物も特高がマークして尾行します。

田中内閣の成立直前の内外情勢

・蒋介石が国民革命を唱え、①軍閥に分裂した中国の統一と、列強や日本が中国に“合法的に”獲得してきた権益を力づくで回収する②国権回収運動の二つを目標とする **北伐** を開始しました。北伐に有効な手が打てなかった若槻内閣に不満を抱いた **樞密院** は、若槻内閣の**台湾銀行救済緊急勅令案**を否決し、若槻内閣総辞職に追い込みました。

< 田中義一 内閣 > の外交

・ **東方会議** 満州における日本権益を実力で守る方針

・ 満州軍閥の **張作霖** を支援

田中は満州の日本権益を守るため、満州を実質的に支配している軍閥である張作霖(馬賊出身)と提携しました。

・ 1928 **不戦条約** (ワリ不戦条約)

フランス外相ブリアンの提唱です。国際紛争を戦争ではなく平和的手段によって解決するという約束を、米英仏そして田中内閣の日本を含む15か国で調印しました。田中は欧米との協調に務めました。原文には「戦争放棄を人民の名において約束する」とあったので、天皇主権の日本としては「人民の名において」を留保して調印しました。

・ 1928 **山東出兵** (第1次～第3次)

済南は山東省最大の商業都市です。鉄道は日本資本で整備されたもので、鉄道沿線には日本資本の鉱山もあり、在華紡も多数進出していました。1万6千人の日本人居留民がいました。蒋介石の北伐軍(国民革命軍)が北上してくるので、張作霖の支援と日本人居留民を保護を名目に山東出兵を行いました。不戦条約は抜け道があって、自衛のための戦争は合法なのです

1928 済南事件

蒋介石は日本軍と戦うつもりはありませんでしたが、蒋介石が率いてきた国民革命軍の一部が済南の日本人を襲撃、武力衝突事件に発展しました。

1928 張作霖軍、国民革命軍に敗北

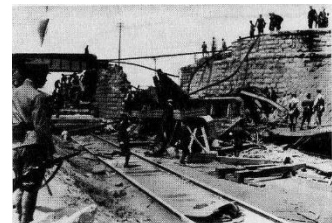
済南事件のように中国は治安もよくないし、敗北するような頼りにならない張作霖を見限り、関東軍が直接満州を支配すべきだという考えが、関東軍の一部に生まれました。※関東軍…満州の日本権益を守る守備隊です。5千人です。

1928 張作霖爆殺事件

国民革命軍に敗北して奉天に帰還する途中の張作霖を、関東軍の一部(河本大佐)が列車ごと爆破しました。

二 満州某重大事件

奉天に向かう列車が鉄道橋を通過する時に、橋に仕掛けた爆薬で橋もろとも列車を吹き飛ばしました。



1928 田中、昭和天皇に「ウソ」の報告

→ 信任を失い、内閣総辞職(まもなく急死)

田中総理 「関東軍の仕業という証拠は見つかりませんでした」
昭和天皇 「田中、前に言ったことと話が違うではないか。」

「辞表を出してはどうか」
「今後、田中と会うつもりはない。」(去る)

田中総理 「陛下～！」(泣く)



張作霖。馬賊(盗賊団)出身。袁世凱死後、満州を実質的に支配する軍閥に成長。ただし満州の治安は決して良くない。